

FUKUSHIKEN JOURNAL

“福祉研ジャーナル”

高齢者や障害者のための施設を専門に設計する、日比野設計+福祉施設研究所が発行するフリーペーパー。高齢者・障害者施設に関する情報や最新のプロジェクト等を紹介します。

2025

TAKE FREE



01. エントランスと庭

FEATURE PROJECT

特別養護老人ホームかなしょうず園

三重県鈴鹿市で計画が進行中の特別養護老人ホーム（120 床）です。既存建物の老朽化に伴う移転建替えて、木造（一部鉄筋コンクリート造）の混構造です。三重県は木材が豊富で流通もよく、大工も多いことから木造とし、木の温かみを感じてもらえるように計画しています。居室棟は2階建、管理や地域交流スペースは平屋とし、のびやかな建築と開放的な広場が地域の核となるような施設です。冬からの着工を目指し準備中です。



02. 地域交流スペース



03. 南側居住棟ファサード



04. 食堂・共同生活室

contents



about NEW BOOK

現在制作中の福祉施設研究所の書籍についての特報！

under construction report

工事が進行しているプロジェクトの現場をレポート

chief 's voice

所長裏山による「時事と高齢者・障害者」

projects report

進行中プロジェクト等を紹介！

What's HIBINOSEKKEI + FUKUSHIKEN?

1972 年に創業した「株式会社 日比野設計」の福祉施設設計ブランド。
日比野設計 + 福祉施設研究所が携った施設は全国に及ぶ。株式会社日比野設計では、他にも幼児施設専門の設計ブランド「幼児の城」、幼児施設インテリア設計のブランド「KIDS DESIGN LABO」、カフェ & レストラン「2343 FOODLABO」や「2343 DEPARTMENT」、保育園「KIDS SMILE LABO」、マルシェ「ICHIGO MARCHE」を運営。施設設計と運営のノウハウを活かし、様々な事業を循環型の事業として展開している。

株式会社日比野設計 / hibinosekkei.com

【本社】 〒243-0218 神奈川県厚木市飯山南 4-18-1 / 046-241-3339

【支社】 〒243-0014 神奈川県厚木市旭町 1-7-3 -3F / 046-230-6155

HIBINOSEKKEI

youji
no
shiro.

2 3 4 3
Farm and Market to Your table.
FOODLABO
founded in 2022

2 3 4 3
Farm and Market to Your table.
DEPARTMENT
founded in 2022

ICHIGO
MARCHE

K
D
L

FUKU
SHI
KEN.

KIDS
DESIGN
LABO.

Nursery and Daycare
KIDS
SMILE LABO
learn, play, eat, sleep, challenge with love

2 3 4 3
Farm and Market to Your table.

KIDS
SMILE LABO
KITCHEN

HIBINOSEKKEI
ENGINEERING

NEW
BOOK

地域一番の 高齢者福祉施設の作り方

—利用者目線の施設だけが、超高齢化社会を生き延びる—

50 年の実績をもとに提案する、愛される福祉施設のデザイン



超高齢化社会が現実のものとなってきた一方で、少子化には歯止めがかからず、さらに 2040 年には、高齢者の総数が減少していくことが確実となっている現在。高齢者福祉施設を「つくれば人が入る」は、もはや過去の話になってきました。利用者に選ばれる、“地域で一番”の施設をつくるためには、福祉サービスはもちろんのこと、施設の建築や家具のデザインも重要。

高齢者福祉施設の設計に 50 年の実績を持つ私たち日比野設計福祉研でも、全国のオーナー様や福祉の現場の方々からご相談をいただくことが増えてきています。施設づくりの何よりの鍵となるのは、従来型の管理・運営がしやすいだけの、運営者目線でつくられた施設から、利用者目線の「時間を過ごしたい」施設へとドラスチックな変換を果たすこと。そのために、どんなことを考えるべきなのか？ 多くのプロジェクトに関わってきた福祉研としてアドバイスできるいくつかのことを書籍にまとめました。さらに識者との対談や、運営に成功なさっている施設への取材なども収録しています。“地域で一番”を目指して、施設の改修や新設を考えるすべての方へ送る書籍です。

01 設計者視点で考える これからの 高齢者福祉施設

従来の多くの高齢者福祉施設が、病院を思わせる内外観なのは一体どうしてなのでしょう？ 病院はそこで体力を回復して普段の暮らしに戻って行く場所であるのに対して、高齢者福祉施設の入居者の大半はそこに暮らします。これからの“地域一番”の施設は、長い時間を暮らす場所として考えていくべき。どんな素材が好ましいか、食の空間をどのように作るべきか……。この分野に確かな実績を持つ日比野設計福祉研が解説します。

02 地域をリードする 高齢者福祉施設の オーナーとの対談

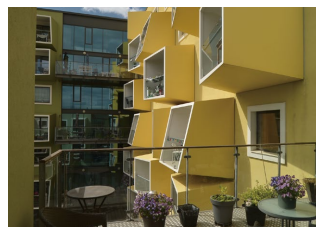
私たち日比野設計福祉研では、これまで、全国に約 50 の高齢者福祉施設を設計してきました。稼働率が高く、入居待ちのリストもあるような“地域一番”の施設のオーナーたちは、いずれも明確なビジョンを持つ方々。そのビジョンが施設の建物（ハードウェア）につながり、そこで行われる福祉サービス（ソフトウェア）にもつながっているからこそ、愛される施設になるのだと実感しています。本書籍では、それぞれに個性的な 3 法人のオーナーたちとの座談会を行いました。彼らの力強い話には、地域に愛される施設づくりのヒントがたくさんちらばっています。

【収録の座談会】

- ①「地域のロールモデルになる先進的な福祉施設を」
社会福祉法人 天年会・玉田香介氏
- ②「地域インフラとしての福祉施設を考える」
社会福祉法人 相模福祉村・赤間源太郎氏
- ③「一般企業の利点を活かした、
高齢者の“やりたい”を実現する施設」
株式会社 K・コーポレーション・館浦圭氏

03 海外の高齢者 福祉施設レポート

福祉研では、国内外の高齢者・障害者福祉施設を数多く訪問してきました。福祉への考え方は国によってさまざま。その中から、今後の日本で求められる福祉施設の最適解を探しています。本書籍には 2025 年のレポートを収録します。



刊行記念イベント決定！

書籍『地域一番の高齢者福祉施設の作り方』発行を記念して、日比野設計福祉研が設計を行ったデイサービスセンター 縁「ゆかり」春日部センターで、刊行記念イベントを行います。同センターの運営を行う株式会社 K・コーポレーション代表取締役の館浦圭氏と日比野設計福祉研の座談会や、設計担当者による施設説明など、高齢者福祉に関わる多くの方にとって実りある時間となるはず。ぜひお越しください。

館浦圭（たてうら・けい）

株式会社 K・コーポレーション代表取締役。理学療法士。2008 年に K・コーポレーションを設立。順調に事業を拡大し、現在は埼玉県春日部市、千葉県野田市に 5 カ所のデイサービス、ショートステイや時短デイサービスを展開。いずれの施設も高い稼働率を誇る。一般法人経営による施設運営の手腕には業界からの信頼も篤く、「介護ケアパートナーズ」代表取締役エグゼクティブコンサルタントとして他施設のコンサルティングも手がけている。「利用者様が夜中に一人でトイレに行けるようになる」を具体的な目標に掲げ、現在も自ら現場に立つ。

2026年 冬 開催予定！

会場 | 縁「ゆかり」春日部センター
(埼玉県春日部市永沼 2158-1)

参加特典 | 書籍『地域で一番の
高齢者福祉施設の作り方』つき

プログラム | 施設見学
設計のコンセプト/手法
館浦社長のご講演他

※イベント概要は変更することがございます。福祉研の HP 等でご確認ください。

ただいま現場進行中

現場の“いま”をお伝え

障害者支援施設たんぽぽの家・特別養護老人ホーム柴胡苑

鉄筋工事

相模原市中央区で進めている障害者施設と高齢者施設の複合施設の現場です。建物の面積が広いため、現場は3つの工区に分けられ、最も進んでいる1工区においては鉄筋工事が進んでいます。鉄筋のサイズや本数はコンクリートの中に入り、最終的には見えなくなるのですが、建物を支える構造の最も重要な部分となります。鉄筋の端部の納め方や本数の考え方、定着長さ等、現場の組み立て段階ではかなり細かい作業になるため、間違いが無いように事前に鉄筋工事業者さんと打合せを行います。図面に対しての質問や、図面では表現しきれていない部分についての納め方など、設計者が意図する内容を伝え、鉄筋を組み立てる職人さんの考え方も含めてすり合わせを行いました。実際にはコンクリートを打設する前に、施工者や設計者の検査を行い、図面との整合性を確認していきます。9月からはいよいよコンクリート打設も始まっていきます。



障害者支援施設北野学園

植栽工事

外構工事が始まっていますが、先行している中庭の様子を少しだけお伝えします。建物同様に外構（庭）にもコンセプトを大切にしています。外構全体では「出会いの庭」、「ふれあいの庭」、「ごろごろの庭」などを計画していますが、居室の窓先と中庭は見せる「四季の庭」としています。今回植えたのはイロハモミジ、ナツハゼ、イジュ、クロマツ、コバンモチ、エゴノキ、シロダモ、ジューンベリー、ブルーベリー、ハクサンボク、ヒラドツツジ、アオダモソ、メイヨシノ、ユズリハ、、、と常緑も落葉も混じり、実のなる木々もあり様々。工事中にはあんなに無機質だった中庭にどんどん植栽と芝生が入りぐっと雰囲気がよくなりました！さっそく小鳥や蝶、トンボも飛んできて生命を感じたり、やはり木々があることの豊かさを感じます。利用者さんも落ち葉拾いや水やりなどのメンテナンスもはじめてくれています。この庭の存在で生活に潤いがでると嬉しいです。



TOPIC 価格高騰時代

「坪200万くらいはかかりますね」

私達の仕事の始まりはそんな会話から始まります、といっても過言ではないぐらい、まずは建設コストをどの様に考えているか、というのは今の時代とても重要なポイントです。

当たり前の事かもしれませんが、皆さんも買い物に行くとき物の品質と値段とは必ず見て購入しますよね。費用対効果というのはそういうものだと思っています。建設業界の中では建物の建設費を坪当たりの単価で表現する事が多くあります。それが冒頭の言葉なんです。

事業計画を策定するにあたり重要な事ですが、事業として安定した運営が出来るならば、やはり高齢者の生活も豊かなものになるはずがありません。今の時代、燃料費や食料品など生活する上で必要な費用は全て値上りしている状況です。もちろんですがそれに比例して建設費も高騰しているわけですが、どの業界もそうですが人材不足という事も建設費高騰の要因の一つに考えられます。

私達が関わる高齢者施設や障害者施設のほとんどは施設整備においての補助金を受ける事業です。補助金においても価格高騰加算をプラスアルファとして出してくれる場合や補助金単価も上がっている事はありますが、やはりこの価格高騰時代に追いついていないというのが印象です。しかし、新たに施設を創る事は別にして昨今の既存施設の建替え計画においては、高齢者や障害者の生活の安全を考えると急務となっている施設も増えてきています。いつ発生してもおかしくない大地震や豪雨による被害は施設においても深刻な問題です。価格高騰している事を理由に先延ばしができるものでもありません。先延ばしにしても価格がいつ下がるか、誰もわかりません。ではこの価格高騰時代に事業を進めていくためにどのようにしていくのか。建設費を極力抑えローコストで創ればよいでしょう。で本当に良いのでしょうか？私達が言い続けている事は「選ばれる施設を創る」という事です。日本の人口構成において高齢化率は高まっていく傾向ですが、2040年高齢者の絶対人口は減少する事になります。これまでに整備されてきた施設は淘汰される時代に入っていくわけです。

現在はまだまだ待機はありますが、今後は利用者が増える時代です。高齢者自身が住みたいと思えるのか、ご家族がそこに預けたいと思えるのかという事はこの時代の流れと共に重要な事になっていくのです。介護施設は稼働率を維持する事が運営において最も注意すべきことで、この稼働率が落ちるとたちまち運営が難しくなります。施設整備の費用を極力抑えながら魅力ある施設創りをしないと生き残れないという事が言えます。施設整備に費用をかけずに魅力ある空間を整備する事は簡単な事ではありませんが、まずは利用者目線を第一に考えてみるという事が近道なのかもしれません。費用対効果という事を意識し、選ばれる施設創りを常に研究しつづけていければと思います。

PROJECTS REPORT

TOPIC mini 介護機器視察

介護業界の最新機器事情



「ケアテックス東京25夏」に行ってきました。5月のケアテックス仙台に続いての視察で、私達の活動において常に新しい設備や介護関連機器等の情報をインプットしておくことはとても大切な事です。

出展されている企業で多いのが、介護業務を支援するソフトウェアやその周辺機器関連です。昨今の介護人材不足を受けて力を入れている部分ですが、介護現場の仕事を出来る限り効率化し、本質となる高齢者へのサービスの質の向上につなげる事が今後のICT化のポイントとなります。

特に介護度が高い高齢者の住まいとなる特別養護老人ホーム等の施設においては介護ベッドや機械浴槽といったおなじみの介護機器についても、利用者の需要に対応した機能や介護スタッフの効率や負担軽減につなげる工夫など、機能面の進化はここ数年で急激に進化しているように感じています。

私達は空間の雰囲気や施設の見え方、デザインは快適な生活をする上でとても大切な要素だと考えています。現在の介護機器はデザインという側面から高齢者の方々が、本当に気持ちよく利用できているかは疑問です。

私達のハード創りで拘り続けている部分なのですが、そこには必ず介護機器が存在してきます。生活空間において快適なデザインを実現するためには、介護機器においても空間にあったデザインや色合いを選定したいのですが、なかなか良いデザインのものはありません。機能面についての進化の半面、デザイン性についての追求が遅れてしまっているように感じます。

高齢者の方々がより快適な生活を維持するために、私達もそうした介護機器を含めたデザインを見つめなおし、新たな時代の選ばれる高齢者の住まいづくりに力を入れていく必要があると感じました。

TOPIC mini 竣工間近！

障害者支援施設北野学園

昨年より工事が始まっていた福岡県久留米市の障害者支援施設の建替計画。
建物と中庭はほぼ出来上がり、検査と引越しを残している状況です。引越しが終われば既存建物を解体しその後、いよいよ外構工事に着手します。利用者の活動の場として、地域へ開かれた広場として整備し、公園のようなスペースになります。開かれた広場が地域との繋がりを産み、関係性を育み、そこに無くてはならない存在に育っていくと思います。

TOPIC mini 進行中プロジェクト

障害者支援施設たんぽぽの家 特別養護老人ホーム柴胡苑



神奈川県相模原市で進めている、障害者施設と高齢者施設の複合施設です。老朽化による建替えと同時に地域とのかかわりを重視し、2つの施設を複合化する事で高齢者、障害者と地域を結ぶ地域の拠点となります。生活するプライベートゾーンと1階部分のパブリックゾーンの別棟部分を配置することで、地域の方々立ち寄りやすい外部空間として散策路を介して建物にアプローチできるように計画しています。

子どもサークル つくばみらいつなぐ園

茨城県つくばみらい市で進めている発達障害の子ども達の児童発達支援センターの新築工事です。県道に面した市街化調整区域となっており周辺には農地が広がっている自然豊かな環境です。就学前の子どもたちにとって様々な経験が大切な時期ですが、敷地の持つ自然豊かな環境を活かし、前庭を介して施設にアプローチする計画とし、極力自然に触れるとともに内部空間においても子ども達がさまざまな体験ができる施設となっています。発達障害の子ども達が生き生きと活動できる場所となり、更なる成長につながる施設になればと考えております。



「お菓子作り」という かたちにする楽しみ

お菓子作りは、私にとって自分の思いをかたちにできる大切な時間です。お菓子作りの魅力は、思い描いた味やかたちを、自分の手で作れるところにあると思います。甘さの加減、食感や香り、見た目まで、すべて自分好みに調整できるのが楽しいところです。

レシビ通りに作るだけでなく、ちょっとした工夫で味や雰囲気が変わるのも面白く、作るたびに新しい発見があります。実際に手を動かしながら理想に近づけていく。その過程そのものが、私にとっては創作であり、自分の表現なのだと思います。

現在乗っているベスパは約二十年前のモデルで単気筒、2ストローク。現代のバイクと違って少々面倒なのですが、これがなんとも味わい深いんですよ。電子制御され過ぎたスムーズな乗り物にはない車体との対話とでも言いましょうか。

チョークを引っ張り、キックでのエンジン始動。ガソリンの臭いとエンジンの音。跨っている時のエンジンの鼓動、ギアチェンジの時の振動。すべてが楽しいのです。息子には純粋にバイクに乗る楽しさと、手のかかるモノヤコトの中にある楽しさを体感して欲しいと思っています。



STAFF NOTE

設計スタッフ
きくち ゆい
菊地 優衣

PAPA'S DIARY

副所長
まえしろ よしのぶ
眞栄城 嘉敦



日々更新中！ 最新情報は HP、SNSを チェック！

福祉施設研究所
HP



福祉施設研究所
ブログ



福祉施設研究所
instagram

